TOMOE®
Excellence through hydrodynamics

ハイブリッドバタフライバルブ

NAV 773Z 779Z/779J

ハイブリッドだから実現できた、高性能と幅広い用途。

建築分野　給水　食品分野　装置廻り

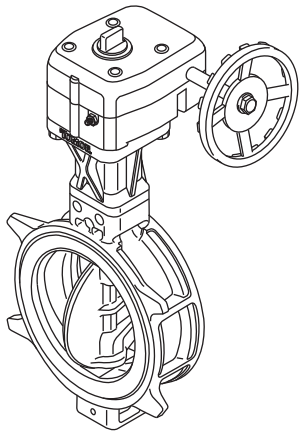
特許取得済　特許第3676785号
特許第3721372号

■標準仕様

弁型式		773Z	779Z / 779J
本体形状(芯出し方法)		中心型ウェハータイプ	
弁呼び径		40、50、65、80、100、125、150、200、250、300mm	50、65、80、100、125、150、200mm
適用フランジ規格		JIS5K / 10K, ANSI150Lb, BS4504 PN10, DIN NP10※1	
面間寸法		JIS B 2002 46系列 / ISO5752ウェハータイプバタフライバルブ(ショート)	
最高使用圧力		1.0MPa	
加圧方向(流れ方向)		両方向シール	
試験圧力	本体耐圧	1.5MPa (水圧)	
	弁座リーク	1.1MPa (空気圧)	
使用温度範囲		−20〜120℃	−20〜60℃
連続使用温度範囲		−10〜100℃	−10〜50℃
標準材質	本体	ADC12	
	弁体	SCS13 / SCS14 / PPS※2	SCS14(リブ付)
	弁棒	SUS420J2	
	シートリング	EPDM(オプション：NBR)※3	シリコン+テフロンコーティング※2
トップフランジ		ISO5211/1準拠	
配管用ガスケット		不要	
塗装		ウレタン系焼付塗装(マンセル2.5BG6/12)但し、コラム部は黒色	

※1. JIS G5527については弊社営業までお問合せください。
※2. 食品衛生法に適合しています。
※3. 油及び油分が若干でも混入している流体に適用する場合、EPDMゴムシートリングは絶対に使用しないでください。
塩素を含む流体の場合、濃度・温度等の複合要因により、シートリングが早期に劣化する恐れがあります。詳細につきましては、弊社営業にご相談ください。
塩素を含む流体の場合、濃度等の複合要素にもよりますが、846T/847T等(テフロン仕様)を推奨致します。

取り扱い上のご注意



インパクトレンチのご使用について

ゴムシートバタフライバルブの配管作業及び、配管ボルトの増し締めに高出力のインパクトレンチを使用されますと、ご使用機種やご使用方法により、バルブ本体、シートリング、配管フランジ(特に樹脂ライニング管)、ボルト等の変形や破損の原因となる可能性がありますので、ご注意ください。インパクトレンチをご使用になる場合は、最大出力を下表の数値(配管ボルトの強度)以下の機種で作業してください。

表1　金属製フランジの場合　(Nm)

ボルト径	M12	M16	M20	M22	M24	M30	M36
インパクトレンチ最大出力Nm	64以下	150以下	300以下	400以下	640以下	1260以下	2200以下

表2　樹脂製フランジ、樹脂ライニングフランジの場合　(Nm)

弁口径	ボルト径	推奨トルク
40〜100mm	M16	40
125〜200mm	M20	80
250〜350mm	M22	100
400〜500mm	M24	130
550〜600mm	M30	250

配管要領

- バルブのシートリングおよび弁体の材質を確認して配管してください。
- 逆止弁やポンプにバタフライバルブを直接取り付けると、弁体が相手側にあたることがあります。短管を入れて配管してください。
- バルブを取り付ける場合、バルブ近隣の溶接作業が全て完了してからにしてください。(溶接スパッタの付着によるバルブ損傷防止のため)
- 配管フランジの溶接後すぐにバルブを取り付けず、温度が下がってからにしてください。また、フランジにバルブを取り付けて溶接することも絶対に避けてください。
- 配管の際は、溶接スパッタ、パイプ屑、スケール、砂塵などがパイプ内に残留していないかを確かめ、必要に応じて流路を清掃してから配管してください。
- ブローする場合は、配管内に本バルブと同一面間の短管を取り付けて行ない、異物を完全に除去してください。バルブを配管した状態でブローすると、シートリングなどを傷つける可能性があるため避けてください。
- バルブに接するフランジ面は、エアーパージによって清掃してから配管してください。錆、その他の異物などが付着しているときには、適当な洗浄液(アルコール、中性洗剤等)で洗浄してください。
- 亜鉛メッキフランジの場合、フランジ面の極端な凸凹はフランジモレの原因になることがありますのでご注意ください。
- 配管フランジの歪み、芯ズレおよびフランジガスケット面に傷などのないことを確認してください。
- フランジとバルブの芯出しは、正確な作業をしてください。
- バルブのシートリングを傷つけないようにジャッキボルトをセットし、面間を調整してください。面間は、バルブ面間より片側で3〜5mm程度押し広げた状態でバルブを挿入します。
- 配管の中心を出した後、バルブの底にあたる位置にボルトを差し込みバルブの落とし止めをします。
- 配管ボルトを締めつける前に、バルブの弁体を開状態にしてもフランジ内側に弁体があたらないかを確認してください。
- 配管用ボルト締め付け時は、対角線上のものから交互に均等な力で締め付け、片締まりのないように注意してください。
- 配管取り付け後バルブを開閉し、弁体が配管にあたらないことを念のため確認してください。

運転・操作

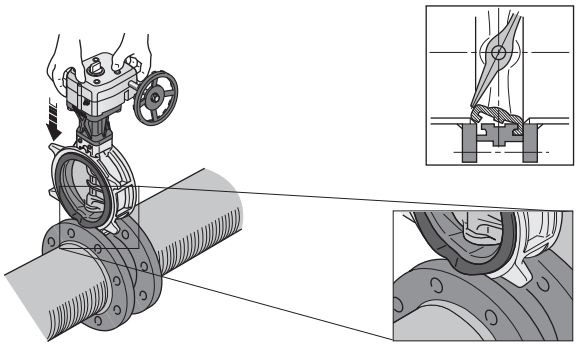
- 運転に入る前に配管外はエアーパージによって、配管内は通水によって清掃してください。
- 開度30°以下で絞り運転される場合、ご相談ください。

その他

- 配管後、長期休止状態になるときは、2週間に1度の割合で、また、運転前に、必ず1〜2度程度、バルブを開閉作業してください。
- 配管の耐圧テストの際(定格以上の圧力のテスト)、バルブは全開状態にしてください。バルブを全閉にして閉止フランジの代用にしないでください。
- アクチュエータが手動ギヤ、空気圧シリンダ、電動モータ、ダイアフラムなどで周囲温度が高い場合には、Oリングなどのゴム材質を特殊材にする、あるいはモータ、電磁弁等の絶縁階級の高いものへの変更等が必要となる場合もありますので、あらかじめご連絡ください。
- ロックレバー式、ウォームギヤ式の開閉操作は、必ず手で行なってください。レバーにパイプをかけたり、ギヤハンドルにウイルキーをかけて操作しますと、レバーやハンドルの破損、バルブの故障の原因になりますので避けてください。ゲート弁グローブ弁のようなトルク締めは不要です。
- レバー式で閉止操作する場合は、開度板のストッパーに当たるまでまわして、閉止してください。

配管に際してのご注意

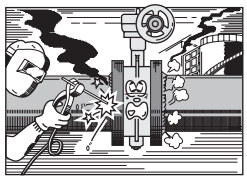
✕ 無理に押し込むとシートリングがめくれ、漏れの原因となります。



✕ バルブを放り投げたり、レバーやハンドルに物を乗せたり、
体重をかけたりしないでください。

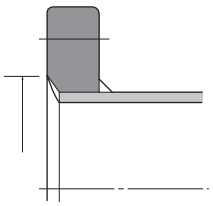
配管フランジの溶接後すぐにバルブを取り付けないでください。

✕ フランジの温度が下がってからにしてくださ
い。また、バルブにフランジを取り付けて溶
接することも絶対避けてください。

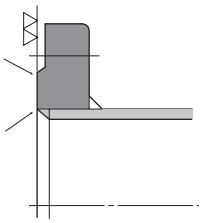


✕ 下記の場合はシートリングの損傷や、フランジの漏れの原因となります。

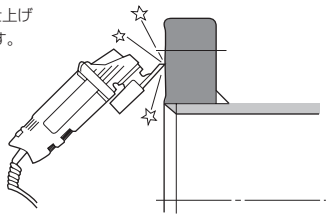
●過大な溶接のとけ込み
内径が大きくなるとフランジ
漏れになることがあります。



●シャープエッジ
シートリング切損の危険性があります。

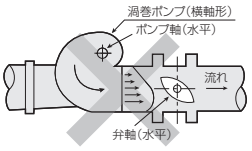


●グライディングによる粗い面仕上げ
フランジ漏れの原因になります。

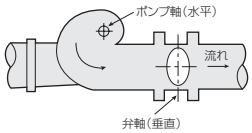


ポンプ出口バルブの取付け方

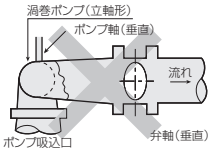
〈悪い取付方向〉

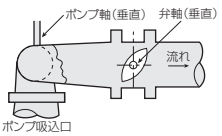


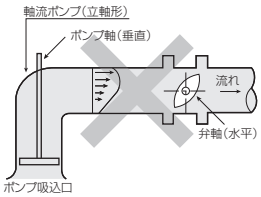
〈良い取付方向〉

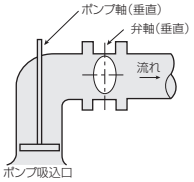


曲管（エルボ）の二次側・レデューサの下流側・コントロール弁の二次側には設置しないでください。やむを得すこれらの場所に設置する場合はバルブ呼び径の5倍程度離してください。



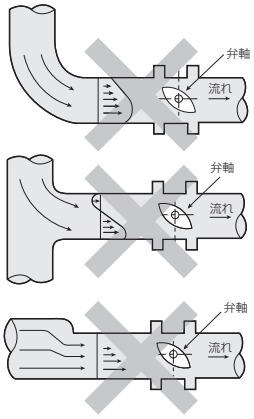




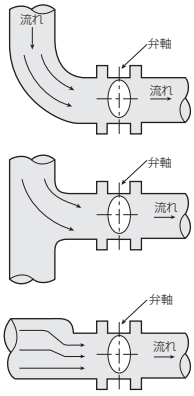


曲がり管、レジューサー部の取付け方

〈悪い取付方向〉

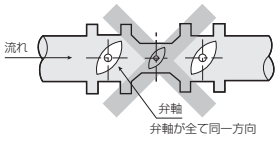


〈良い取付方向〉

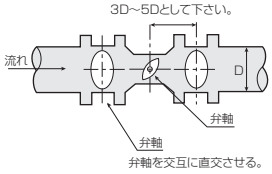


コントロールバルブとストップバルブの組合せの場合

〈悪い取付方向〉



〈良い取付方向〉



巴バルブ株式会社 www.tomoevalve.com

東　京	〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4番25号日教販ビル8階	TEL03-5803-1610(代)
大　阪	〒550-0013 大阪市西区新町3丁目11番11号	TEL06-6110-2101～3
名古屋	〒461-0005 名古屋市東区東桜1-9-29 オアシス栄ビル8階	TEL052-953-1831(代)
広　島	〒730-0037 広島市中区中町7-41 広島三栄ビル3階	TEL082-244-0511(代)
福　岡	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1丁目1番33号はかた近代ビル8階	TEL092-473-6831(代)
札　幌	〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目2番地1太平洋興発ビル4階	TEL011-222-4261(代)
仙　台		TEL022-211-4981(代)

■お問い合わせは

Cat.No.JG057-⑧ | 2012.11.26-Pn